

# a Dream in Ishikawa いしかわのススメ

センセイ・ガクセイ・ソツギョウセイが語るいしかわ



Vol.01 KANAZAWA UNIVERSITY

金沢大学理工学域機械工学類学類長・教授

喜成 年泰さん (57歳)

TOSHIYASU KINARI

金沢大学理工学域機械工学類2年

宇畑 勲駿さん (21歳)

HIROTOSHI UBATA

コマツ産機(株)  
開発本部開発1部  
副部長兼先端加工グループ長

河本 基一郎さん (49歳)

KIICHIRO KAWAMOTO

金沢大学工学部機械工学科卒業(1989年)  
同大学院工学研究科修了(1991年)  
同大学院自然科学研究科博士後期課程修了(2015年)



## 石川って、思っていたよりスゴいかも。

地域の魅力は、その土地で働き、暮らしている人に聞くのが一番。「いしかわのススメ」は、石川県内の大学の在學生と教員、県内企業に就職した卒業生の座談会を通し、石川の魅力を改めて見つめます。第1回目のトークは、金沢大学のみなさんが参加しました。

### 地元志向ではなかったけれど

**喜成** 河本さんは現在、どんな仕事を担当しているのですか。

**河本** 在籍するコマツの子会社「コマツ産機」でプレスを使用した塑性加工の研究開発に従事しています。私は入社以来、プレス周辺装置の設計にずっと取り組んできましたが、現在は機械の設計開発から離れ、塑性加工の研究を行っています。

**喜成** 就職に当たっては、地元の企業へということを考えていましたか？

**河本** 石川県内に粟津工場があることは一つのきっかけになりましたが、コマツは世界中に工場や開発拠点を持っています。自分がどこで働くとか、入社前には分かりませんし、あまり地元こだわりはありませんでした。

**喜成** 宇畑さんは卒業後の進路について、今どんな風に考えていますか？

**宇畑** 僕は将来、海外の大学院に進み、海外での就職も選択肢の一つとして考えています。向こうで働くようになったら、現地の人にとって代わることのできないス



ガクセイ

キルが必要ですから、学部生のうちに何か極められるものを見つけて、それをとことん追究できたら、今試行錯誤しています。

**喜成** 宇畑さんは進学・就職について、海外を強く意識しているんですね。河本さんの進路選択のときはいかがでしたか？

**河本** 私は、世界で仕事をしたい、大きな機械を設計して世界で勝負したいという希望がありました。コマツに入社したのもそれが理由でしたが、今にして思えば、地元企業もいいかな、というイメージも若干あったと思います。

### 北陸の強み「ニッチトップ」

**河本** 私は一時期、海外に出ることはありましたが、勤務地自体はずっと県内です。親が近くにいますから、子どもの面倒を見てほしいときは頼りにできましたし、様子を見に行くことも簡単にできます。また、自分の専門性を高めたいという思いから、働きながら母校に通い「博士号」も修得できました。そういう意味では「地元

に残って良かったな」という思いがあります。グローバルカンパニーとは言いながらも、コマツは北陸、石川出身者が相対的に多いかなと思います。

**喜成** ただ、実情としては金大から地元の機械系企業に就職する割合は低いです。そもそも機械系自体、北陸出身の学生が少ない。さらに就職となると、北陸に残る学生は2割から1割になっています。

**宇畑** なぜ北陸を離れる人が多いのでしょうか。

**喜成** やはり企業の数と規模が大きな要素ですね。大手メーカーは関東・東海・関西に集中していて、1万人以上の社員が働く企業も多くあります。将来設計を考えるにしても、ある程度大きい会社の方が描きやすい。でも北陸にはすき間産業で他の製造業を支えるキーテクノロジーを持つ「ニッチトップ」がたくさんあります。学生や一般の方にはあまり知られていませんが、規模が小さくても、その分野では世界一という企業がたくさんあるんです。

**河本** おっしゃる通りで、私の会社もそうですが、世界的に断トツの技術を誇る企業は石川、北陸にはいっぱいありますよ。会社も情報発信していくべきですが、学生もブランドや知名度にとらわれずに企業研究をじっ



ソツギョウセイ

くり行うことで、それぞれの企業の強みが見えてくると思います。

### 石川にしながら世界と勝負

**喜成** 本学は活躍の場所は世界と宣言しています。世界で活躍できる人材を輩出する一方で、地元で活躍する人も育ててほしい。地元の企業でも、やりがいはあると思いますし、世界で1、2を争う組織の先頭になれる。大変は大変ですが、頑張っている卒業生はたくさんいます。

**河本** 私も25年間、小松、金沢をベースにしなが、中国に駐在、米国留学もしましたし、世界中で勝負してきたという自負はあります。そういう意識でいけば、生活しやすい石川で、世界と勝負できる仕事はいくらでもありますよ。

**宇畑** 僕は浪人時代、大学に入ったあそこに行きたい、ここにも行きたいと想像していて、金沢大学に入学してからは、海外に出ることを強く意識するようになりました。それで、海外での大学院進学や就職を考えていたのですが、喜成先生や河本さんの話を聞いて、石川をベースに世界トップレベルの仕事をするのも格好いいなと強く思いました。

結論：石川には、世界を舞台に活躍できる企業がたくさんある！



センセイ